



小学校高学年～ 高校生向け 年 組

(2023年6月22日付・下野新聞1面)

記事は加工しています

日本過去最低 A位

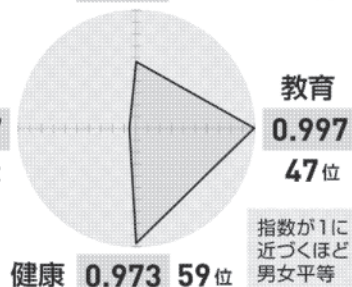
男女格差、政経分野で深刻

【ジュネーブ共同】スイスのシンクタンク、世界経済フォーラム（WEF）は21日、各国の男女平等度を順位付けした「男女格差（ジェンダー・ギャップ）報告」を発表し、日本は調査対象の146カ国中125位だった。2019年12月公表版の121位を下回り、過去最低の順位。先進7カ国（G7）では79位のイタリアに大きく引き離され、東アジア・太平洋地域でも最下位だった。

ジェンダー・ギャップ報告

日本のジェンダー・ギャップ指数 **0.647** 125位

経済 **0.561** 123位 ※2023年、WEF発表



指数が1に近づくほど男女平等

G7、東アジアで最下位

報告は政治、経済、教育、健康の4分野について、男女参画の平等達成度を指数化。日本は政治で138位と最低水準に沈み、経済でも123位にとどまった。両分野で女性の進出が実現していない深刻な状況が、全体順位を押し下げた。前回22年7月公表の報告では全体で116位だった。

女性首相が依然誕生していないことや、議員・閣僚に占める女性の割合の少なさが足を引っ張り、収入格差や女性管理職の少なさが指摘された。一方で教育、健康の両分野では、ほぼ平等が達成されているとした。全体では首位からアイスランド、ノルウェー、フィンランドの北欧諸国が例年

通り上位を独占。東アジア・太平洋地域では4位のニュージーランドがトップで、続いてフィリピンが16位につけた。G7では6位のドイツが最上位だった。日本は105位の韓国、107位の中国にも後れを取っている。政治分野で日本より下位に位置するのは8カ国のみ。イランやアフガニスタンなど、イスラム教徒が多く女性の社会進出に消極的な国のほか、21年のクーデターで国軍が実権を握った

設 問

【1】「 A 」には数字が入ります。記事をよく読んで、適語を答えましょう。

【2】以下の文が正しければ○、誤っていれば×をつけましょう。

「男女格差（ジェンダー・ギャップ）報告」の日本の順位は先進7カ国の中で最下位ではない。

【3】日本のジェンダー・ギャップ指数を押し下げているのは、どのような状況が影響していると考えられますか？グラフを読み取り、まとめましょう。

【4】日本はどういった分野ではほぼ平等が達成されているとありますか？ 記事をよく読み、答えましょう。

み。イランやアフガニスタンなど、イスラム教徒が多く女性の社会進出に消極的な国のほか、21年のクーデターで国軍が実権を握った

ミャンマーなどだ。経済分野でも、20カ国・地域（G20）で日本より下位なのは133位のトルコ、142位のインドなどと新興国ばかり。両分野で示す日本の総合的な指数は0.647だった。

が際立った。

【ズーム】男女格差報告 スイスのシンクタンク、世界経済フォーラム（WEF）が2006年に発表を始めた報告書。各国の政治、経済、教育、健康の4分野での男女平等度を評価してジェンダー・ギャップ（男女格差）指数を算出し、順位付けしている。対象国は今回146カ国で、うち日本を含む102カ国が初回から継続して調査対象となってきた。北欧諸国が上位の常連でイスラム教諸国が下位に目立つ中、日本は近年、先進国としては異例の100～120位台で低迷を続けている。